

エレンタール®配合内用剤を 服用されるIBD患者さんへ

医療関係者用

監修

医療法人弘仁会てんのうじ消化器・IBDクリニック 院長
東京山手メディカルセンター 炎症性腸疾患内科 部長

鎌田 紀子先生
酒匂 美奈子先生

エレンタール®ってどんな薬？

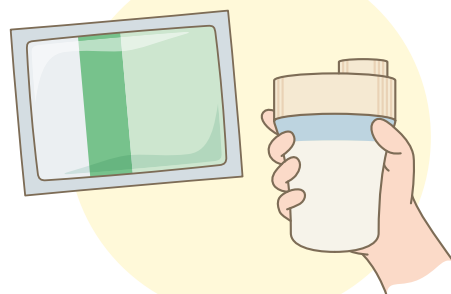
消化管への負担を抑えながら必要な栄養を効率的に摂取できる成分栄養剤です。

- ✓ 消化管への負担を減らす¹⁾
- ✓ 栄養状態を改善する²⁾
- ✓ 1包(80g)あたりの脂質の含量が1.5%である³⁾
- ✓ 経口摂取と経鼻経管栄養法の両方で服用できる³⁾

1) Wright SH, et al.:Am. J. Physiol 1980;G230.

2) Yamamoto T, et al.:Inflamm Bowel Dis 2005;11(6):580-588.

3) エレンタール®配合内用剤 インタビューフォーム 2025年4月改訂(第10版)



栄養療法ってどんな役割があるの？

栄養療法は、炎症を惹起させないようにする治療法です。

火事に例えると**火をつけない、防ぐ、火の用心**的な役割

火をつけない、防ぐ
炎症を惹起させにくい

食事療法・栄養療法
食事を調節



放水して鎮火
起こった炎症を鎮静化

薬物療法
抗炎症・免疫調節

イメージ図

エレンタール®服用により期待できること



食事の半分をエレンタール®に
することで寛解状態を
維持することが期待できます。



栄養状態を維持することが
期待できます。



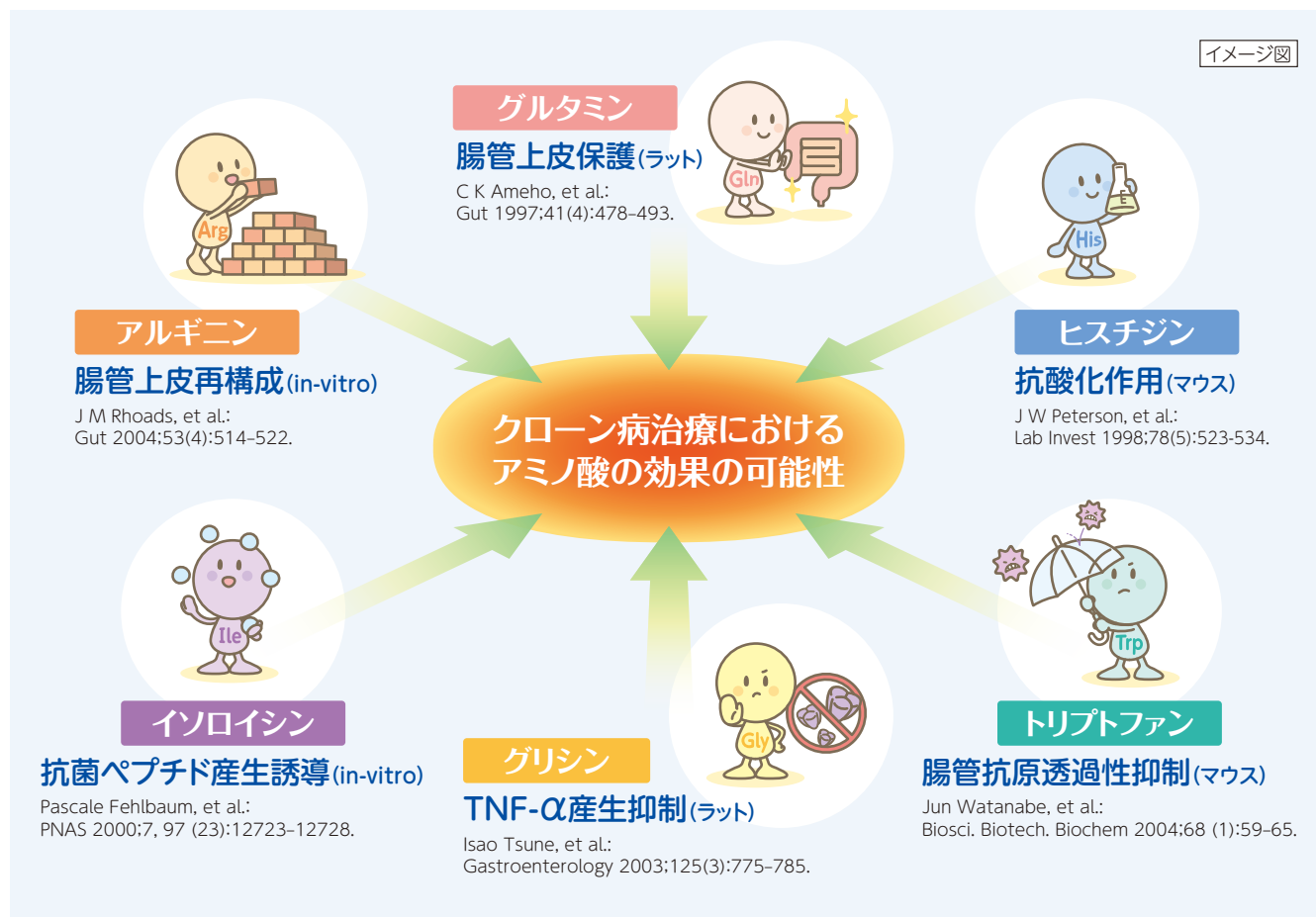
脂質量を抑えることで寛解を
維持することが期待できます。

4. 効能または効果

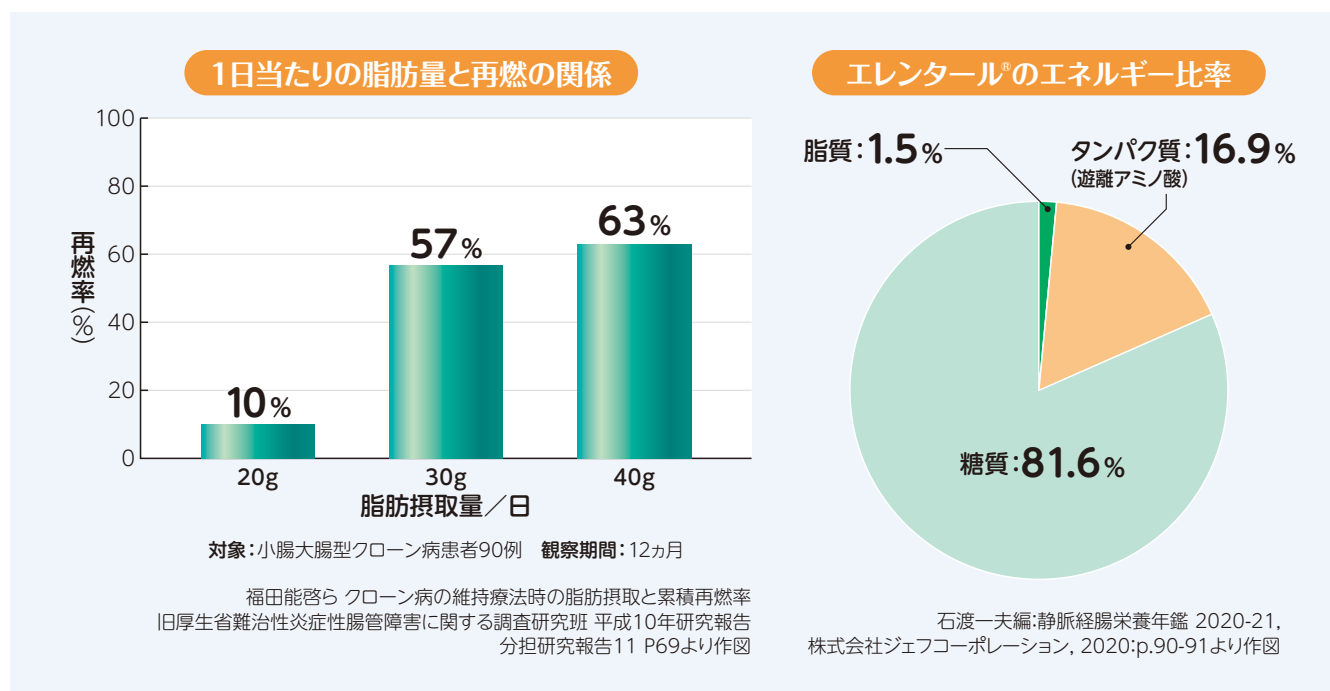
本剤は、消化をほとんど必要としない成分で構成されたきわめて低残渣性・易吸収性の経腸の高カロリー栄養剤でエレンタールダイエット又は成分栄養と呼ばれる。一般に、手術前・後の患者に対し、未消化態蛋白を含む経管栄養剤による栄養管理が困難な時利用することができるが、とくに下記の場合に使用する。

○ 未消化態蛋白を含む経管栄養剤の適応困難時の術後栄養管理 ○ 腸内の清浄化を要する疾患の栄養管理 ○ 術直後の栄養管理 ○ 消化管異常病態下の栄養管理(縫合不全、短腸症候群、各種消化管瘻等) ○ 消化管特殊疾患時の栄養管理(クローン氏病、潰瘍性大腸炎、消化不良症候群、脾疾患、蛋白漏出性腸症等) ○ 高カロリー輸液の適応が困難となった時の栄養管理(広範囲熱傷等)

腸管機能、粘膜免疫への遊離アミノ酸の効果が報告されています。



脂肪摂取量が少ないほど再燃が少ないことが報告されています。

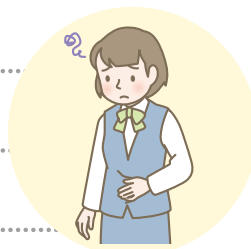


エレンタール®導入のポイント

1. いつから?
クローン病と診断された初期から

2. どのくらい?
600~900kcal/日

3. どんな人に?
小腸に病変を有する人
アルブミンの低い人
生物学的製剤の有無に関わらない



エレンタール®の調整方法



1 リュースボトルに、水またはぬるま湯を約250mL入れます。



2 エレンタール®1包(80g)を入れます。
※ フレーバーを入れる場合は、この時に入れます。



3 ふたをしっかり閉めて、よく振って溶かします。



4 約300mL(約1kcal/mL)の溶液になります。ゆっくり飲んでください。

フレーバーの使い方

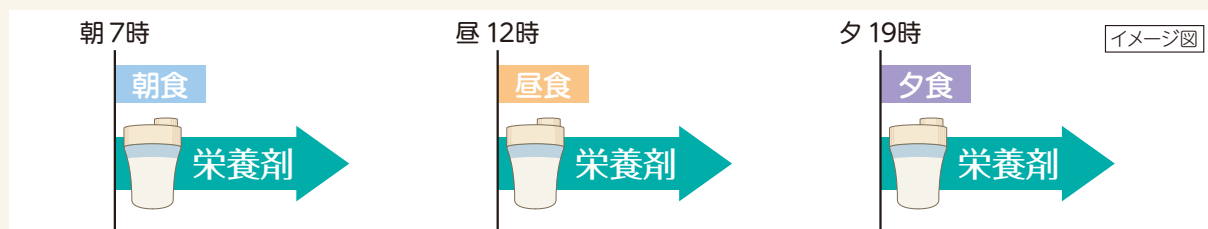
エレンタール®1包(80g)に1袋(5g)を加えてご使用ください。お好みにより、フレーバーの量は加減してください。



エレンタール®配合内用剤 インタビューフォーム 2025年4月改訂(第10版)

エレンタール®の服用例

〈1日3パック〉



8. 重要な基本的注意

8.2 本剤は成人の必要最少量の電解質を含んでいるが、病態によっては必要量が異なるため、本剤投与により電解質の過多を生じることがある。そのような場合は、必要に応じて本剤の投与量の調節等の処置を行うこと。

エレンタール®を服用いただく患者さんにお使いいただけるアイテム

1 味のバリエーションが楽しめるフレーバー 10種



2 お好みの食感が楽しめるゼリーフレーバー 3種

ムース状やゼリー状に調整することができます。



長く無理なく続けるために
お好みのフレーバーを
お使いください!

3 洗って繰り返し使えるリユースボトル

eボトルの特徴



300mL(1回分)の
大きさで持ち運び
しやすい!



開け閉めしやすく、
漏れにくい!



手が入る
大きさで
洗いやすい!



患者さん向けアプリ



IBDサポート®

炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)患者さんの
毎日の食事と体調の管理をサポートするアプリです。



IBDサポート®の主な機能



食事記録



体調記録



振り返り



詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.eapharma.co.jp/patient/useful/ibdsupport>



ご利用にはアカウント登録が必要です。